

令和5年11月17日（金）
宮崎県特別支援教育研究連合
情緒障がい教育研究部会

今後の通級による指導を考える

- I. 学校を取り巻く状況
- II. 通級による指導
- III. 通級担当者との情報交換
- IV. 関連する取組

I. 学校を取り巻く状況

18歳意識調査 「第20回 -社会や国に対する意識調査-」 要約版

日本財団 2019年11月30日

調査概要「18歳意識調査」-社会や国に対する意識調査-

エリア インド・インドネシア・韓国・ベトナム・中国
イギリス・アメリカ・ドイツ・日本

調査対象 各国の17歳～19歳男女

回答数 各国1000名
※下記の割付にて回収

	17歳	18歳	19歳	計
男性	166	167	167	500
女性	166	167	167	500
計	332	334	334	1000

調査除外 下記の関係者は調査から除外
印刷業・出版業/マスコミ・メディア関連/
情報提供サービス・調査業/広告業

実施期間 2019年9月27日（金）～10月10日（木）

調査手法 インターネット調査

※注記：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

質問（ご自身について）

1. 自分を大人だと思う
2. 自分は責任がある社会の一員だと思う
3. 将来の夢を持っている
4. 自分で国や社会を変えられると思う
5. 自分の国に解決したい社会課題がある
6. 社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している

5

学校における指導・支援



【集団（一斉指導）】



【小集団】



【個別指導】



学校全体での指導や支援
(学年や学年、学級)
■わかりやすい授業づくり
(授業のUD化)
■認め合い、支え合う学級
づくり

学級の中での個別的な
指導や支援
■担任の配慮指導
■T Tによる指導、少
人数制指導
■通級担当による入り
込み指導

個別での指導や支援
■通級による指導

7

自身について

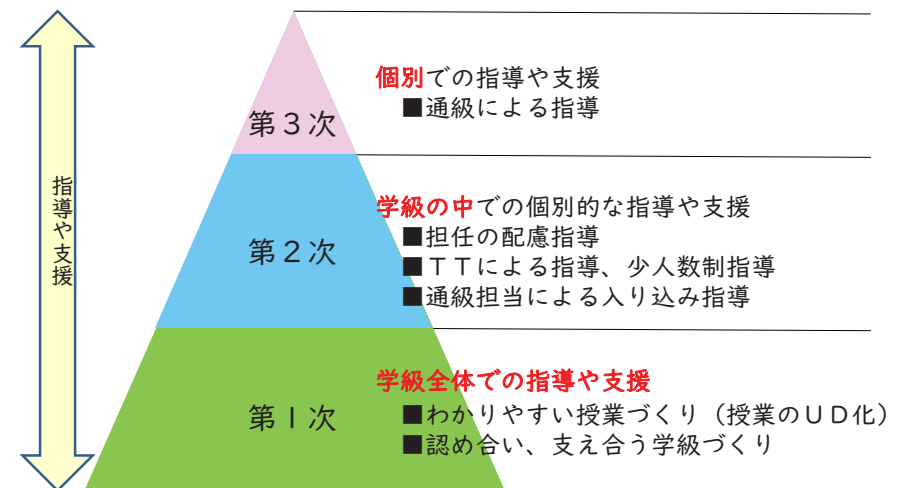
日本は、いずれの項目においても9カ国の中で他の国に差をつけて最下位となった。

Q1 あなた自身について、お答えください。(各国n=1000)
(※各設問「はい」回答者割合)

	自分を大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられると思う	自分の国に解決したい社会課題がある	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している
日本 (n=1000)	29.1%	44.8%	60.1%	13.3%	46.4%	27.4%
インド (n=1000)	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア (n=1000)	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国 (n=1000)	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム (n=1000)	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国 (n=1000)	89.9%	90.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス (n=1000)	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ (n=1000)	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ (n=1000)	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

5

多層支援からインクルーシブへ



8

集団指導と個別指導



▲個人の違いは視野に入らず、全員に「平等」なものが提供されている

▲個人の違いを考慮しそれぞれに「公平」な機会が提供されている

▲構造的なバリアが取り除かれ、全員が平等かつ公平な機会を保持している

© 2021. For information, contact Deloitte Tohmatsu LLC.

生徒指導提要（生徒指導の4層） R4.12改訂

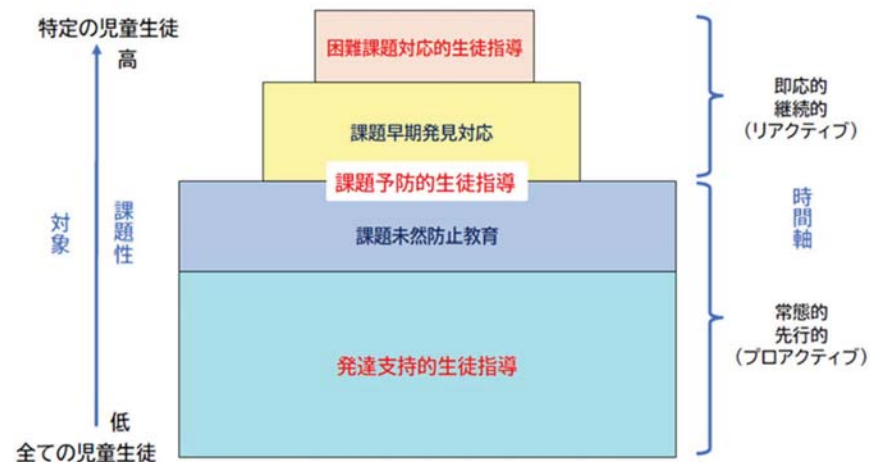


図 生徒指導の重層的支援構造

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査

通常の学級担任等が「学習面又は行動面で著しい困難を示す」と判断した児童生徒数の割合（小中学校）

平成14年調査（ 6.3% ）

平成24年調査（ 6.5% ）

令和4年調査（ ）

※「学習面での著しい困難」

「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」の一つあるいは複数で著しい困難を示す

※「行動面で著しい困難」

「不注意」「多動性－衝動性」、あるいは「対人関係やこだわり等」について一つか複数で問題を著しく示す

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告（文部科学省、2023年3月）

2. 特別支援教育に関する校内支援体制の充実

- 校内体制の機能強化
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用
- 専門家等との連携

3. 通級による指導の充実

- 意義・課題等、実施形態等、評価・検証、教師等の専門性向上

4. 高等学校における通級による指導の充実

5. 特別支援学校の専門性を活かした取組等

- センターの機能の充実
- 22条の3に該当する児童生徒の支援
- 特別支援学校を含む複数校が一体的に取り組む体制の構築
- 知的障害を対象とする通級による指導

Ⅱ. 通級による指導

通級による指導の意義

- ・ 本人や保護者が通級による指導の仕組みや意義等を理解し、納得した上で指導を受け、通級による指導を活用して良かったという成果を出すことが重要
- ・ 当該児童生徒が、通級による指導で学んだことについて、在籍学級、学校での学習や生活の向上につながっていることを実感し、将来の生活につながっていくことを理解することは、通級による指導を主体的に受けることにつながる大切な視点

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告（2023年3月）

15

通常の学級における多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮に関する研究 （国立特別支援教育総合研究所 重点課題研究2021-2022）

通級による指導は、ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、障害の状態等に応じた特別の指導を特別な場で行う指導形態である。また、通常の学級における「個に応じた指導」や、子供にとっての「個別最適な学び」の基盤づくりができる「学びの場」であり、子供の思いや願いを踏まえた指導や支援に向けた対話ができる「学びの場」である。今後、通常の学級と通級による指導との連携の充実が、通常の学級での教育の更なる充実につながることが期待される。

14

通級による指導の教育課程の編成

- ・ 通常の学級に在籍している児童生徒に対して障害に応じた特別の指導（通級による指導）を行う場合には、特別の教育課程によることができる。

（学校教育法施行規則第140条）

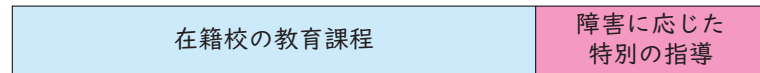
- ・ 在籍する学校以外の学校において通級による指導を受ける場合（他校通級）は、当該児童生徒が在籍する学校の校長が、他の学校で受けた授業を在籍する学校の特別の教育課程に係る授業とみなすことができる。

（学校教育法施行規則第141条）

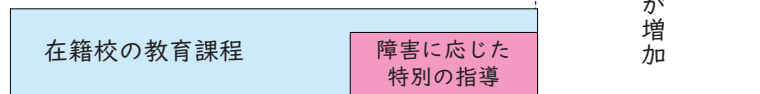
16

通級による指導の教育課程の編成（小中学校）

●加える場合の例（授業時数が増加する）

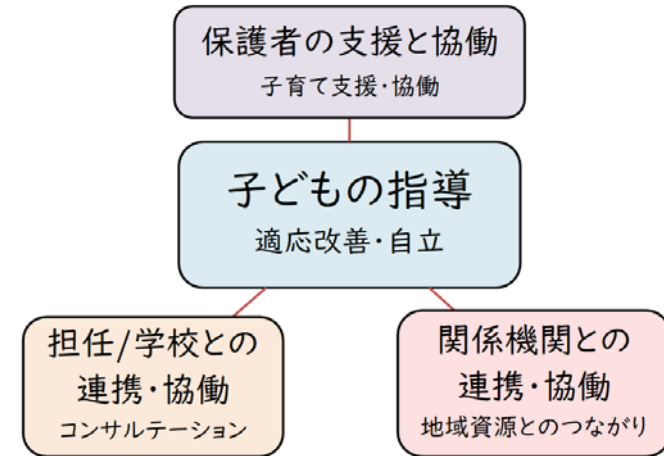


●替える場合の例（授業時数が増加しない）



17

通級担当者の役割と専門性



関係機関と連携し、子ども、保護者、在籍校の自立を支援

19

自校通級・他校通級・巡回による指導

	メリット	デメリット
自校通級	通学に関する負担がない。 慣れた環境で指導が受けられる。 通級の担当者と学級担任等との連携等が取りやすい。	心理的な抵抗なく別室に通える工夫が必要。
他校通級	対象児が少ない学校でも実施可。 グループ指導が実施しやすい。 送迎時に保護者と通級担当者が直接情報共有がしやすい。	送迎による保護者の負担がある。 通級の担当者と学級担任等との連携等に時間を要する。 心理的抵抗なく他校に通える工夫
巡回指導	対象児が少ない学校でも実施可。 通級の担当者と学級担任等との連携等が取りやすい。	通級の担当者の移動等の負担 旅費の計画的な措置 兼務発令等の指示・命令権限 心理的負担なく別室に通える工夫

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の
在り方に関する検討会議報告（2023年3月）

18

通級による指導の実施形態

他校通級に伴う児童生徒や保護者の送迎等の負担を軽減することや、児童生徒が在籍校の慣れた環境で安心して指導を受けられるようにするため、自校通級や巡回指導を一層促進させる必要がある。

ただし、障害の特性による指導効果や本人・保護者の意向等により他校通級が望まれる場合もあることから、それぞれの実情に応じた柔軟な対応が求められることに留意する必要がある。

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の
在り方に関する検討会議報告（2023年3月）

20

総合的なアセスメント

- ①学習面、行動面の特性の把握
(行動観察等から得意なこと、苦手なことなど)
- ②発達上(認知特性)の偏り(検査の結果等から)
- ③想定される障害(障害を想定させる実態から)
- ④二次的な障害の有無
- ⑤本人、保護者、担任等の願い、思い

※本人と保護者、教員のニーズは必ずしも一致しない

※本人参加のケース会議と個別の指導計画の作成

21

主な指導内容

【障害認識や自己理解に関するもの】

障害認識、自己理解、特性理解(得意なこと・苦手なこと)
リフレーミング、自己評価と他者評価 など

【ライフスキルに関するもの】

挨拶、整理整頓、身辺自立、時間の概念、健康管理、金銭管理、
電話応対、メモの取り方、スケジュール管理、余暇活動など

【ソーシャルスキルに関するもの】

コミュニケーションスキル、対人関係スキル、ストレスコーピ
ング、状況判断、問題解決能力、援助要請の仕方 など

【学習スキルに関するもの】

認知特性に応じた学習方法の習得、知識や情報の補充、
認知機能強化、手先の巧緻性 など

高等学校における通級による指導者協議会(2023、笹森)

23

自立活動の内容

- ・人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素
- ・障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するため
に必要な要素

子ども一人一人が障害の状態や発達の段階等に応じて、主
体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこう
とするという視点が重要

特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(2018)

22

指導支援のポイント

・落ち着ける環境を保障する

- 自分に合ったペースで学べる環境を保障する
- 友達と比べない、個人のがんばりを評価する

・自分に合った学び方を知る

- 誤学習による苦手意識を根付かせない
- 失敗を成功に変える経験を積ませる

・うまくいかないときの対応方法を学ぶ

- わからないことは教えてもらえばよいことを教える
- 失敗しても大丈夫という気持ちを育てる

特性を活かす理解と環境を調整する視点が重要

高等学校における通級による指導者協議会(2023、笹森)

24

教科の内容を取り扱いながら行う指導

- ・障害の状態に応じた特別の指導であり、単に 教科学習の遅れを取り戻すための指導ではない。
- ・例えば、読み書き等の学習面に困難さを抱える児童生徒の場合、学習面のつまずきが生活面や行動面に二次的な影響を及ぼしている場合も少なくない。
- ・自己評価や学習意欲を高めることを目標として、 学び方や学習方略の手がかり等となる指導を各教科の内容を取扱いながら行う。

25

思春期・青年期における通級

自尊感情への配慮など、本人の気持ちを尊重する対応と周囲への配慮が重要になる。

- ・思春期・青年期の課題への配慮
- ・生活・行動面の課題に加えて進路の課題
- ・学習意欲、自己肯定感や自己効力感の低さ
- ・不安障害や強迫性障害、うつ等の二次的な障害
- ・プライバシー、心理的抵抗感などへの配慮

悩みや課題について真摯に受け止め、心理面、情緒面の対応ができる場としての役割も期待される。

27

セルフアドボカシー

（自己権利擁護）

障害や困難のある当事者が、自分の利益や欲求、意思、権利を自ら主張する、自立的に支援を求めていくこと

通級による指導は、必要な支援を自ら求め、働きかけていくことができるように自己選択、自己決定するための力をつける役割も重要

「Nothing About Us Without Us

～ 私たちを抜きに、私たちのことを決めないで～」

26

ICT活用の目的と手段

活用の目的の明確化

- ・ICTは活用することが目的ではなく、学びの機会や権利を保障するための手段として必要なアクセシビリティが保障されているか

アセスメントと評価が重要

- ・ICTの活用が子供の学びを保障しているか、大人の判断・評価ではなく、子供が望み、効果を実感できているか

※ICTが苦手な子供にも留意が必要

28

合理的配慮の提供に関すること

【補助代替手段の活用】

- ・マルチメディアデージー教科書の活用
- ・タブレット端末等 I C T 機器の活用
- ・学習者用デジタル教科書の活用
- ・リーディングルーラー等の支援器具の活用
- ・音声読み上げ機能の活用
- ・アプリの活用

29

Ⅲ. 通級担当者との情報交換

質 問

通級と通常の学級との連携に関する内容について、うまくいっていること（成果）と課題に思っていること（課題）に○をつけてください（複数回答可）。また、○をつけたもののうち、最も成果や課題があるものについて、1つずつ選んで◎をつけてください。

	通級と通常の学級との連携に関する内容	成果	課題
1	対象児童生徒のニーズを担任等と共通理解する。		
2	対象児童生徒の学級での実態を担任等と共通理解する。		
3	指導目標、指導内容について担任等と相談して設定する。		
4	指導時間について担任等と相談して設定する。		
5	ニーズや実態に即した指導方法について担任等と共通理解する。		
6	指導の評価について担任等と共通理解する。		
7	対象児童生徒の課題について保護者と共通理解する。		
8	教材教具等の情報共有を行う（ICTを含む）。		
9	通級と通常の学級相互に授業の参観を行う。		
10	ケース会議（話し合いの機会）の時間を十分に確保する。		
11	個別の指導計画・個別の教育支援計画をともに作成・活用する。		
12	校内支援体制の構築についてともに進める。		
13	周囲の児童生徒や保護者の理解を図る。		
14	関係機関との連携についてともに進める。		
15	その他（ ）		31

発達障害等を対象とする通級による指導と通常の学級との連携に係るワークショップ（概要）

班 活 動：発達障害の特性や教育的ニーズに応じた個別的な指導・支援の在り方に関する研究

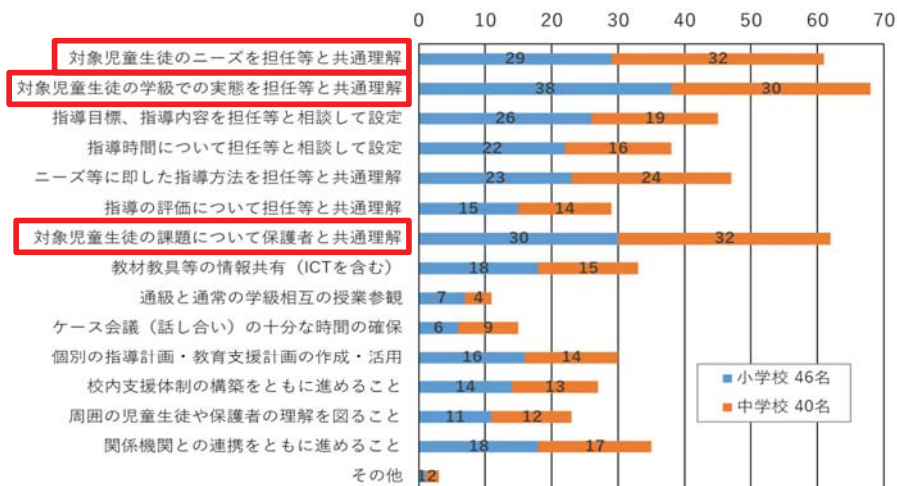
活動内容：発達障害等を対象とする通級による指導の実践に関する情報収集及び、ワークショップの開催

テ ー マ：通級による指導と通常の学級との連携

参加対象：「通級による指導と通常の学級担任との連携」について、教育センター等が主催する研修での実践発表や、研修会等での講師経験がある者など（教育委員会推薦者）

方 法：オンライン

通級による指導と通常の学級との連携（うまくいっていること）



令和4年度国立特別支援教育総合研究所 発達・情緒班ワークショップ事前アンケート

33

通級担当者が通常の学級の担任との連携を進めるために工夫していること

【小学校】

- ・年間スケジュールの共有
- ・校務支援システムでの情報共有（個別指導計画など）
- ・担任の指導方針を尊重（指導・支援への提案）
- ・支援の役割分担（一人で抱えこまない）
- ・小学1、2年生を対象とした理解教育
- ・担当者の専門性向上

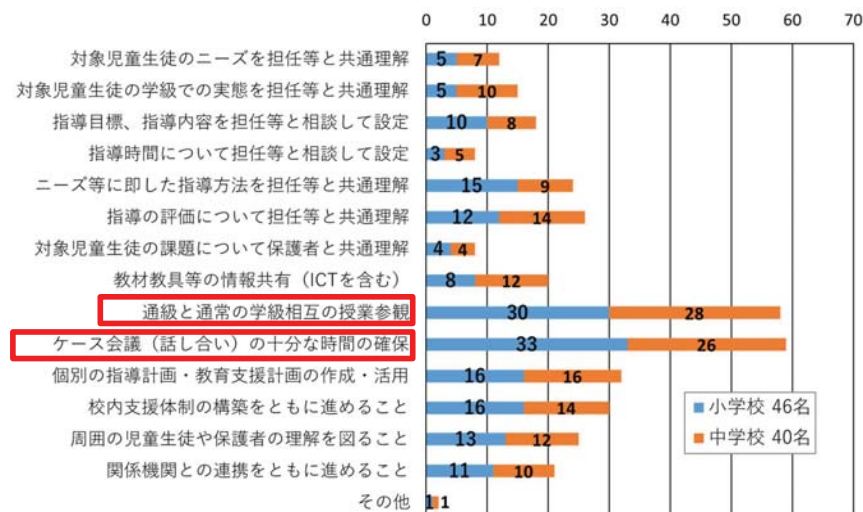
【中学校】

- ・担任との情報共有（授業参観、面談、連絡会の開催）
- ・連携のためのシステム化（年間の流れや様式等）
- ・通級による指導の授業公開
- ・通級による指導の評価会の開催
- ・障害に関する理解啓発授業を協働
- ・生徒の考えや気持ちの傾聴、共感、代弁

令和4年度国立特別支援教育総合研究所 発達・情緒班ワークショップ

35

通級による指導と通常の学級との連携（課題に思っていること）



令和4年度国立特別支援教育総合研究所 発達・情緒班ワークショップ事前アンケート

34

発達障害等を対象とする通級による指導の実践に関するワークショップ（概要）

班 活 動：発達障害の特性や教育的ニーズに応じた個別的な指導・支援の在り方に関する研究

活動内容：発達障害等を対象とする通級による指導の実践に関する情報収集及び、ワークショップの開催

テ ー マ：「巡回型の通級による指導の充実に向けて」

参加対象：通級による指導を5年以上経験しており、現在小中学校において「巡回指導」を担当している者

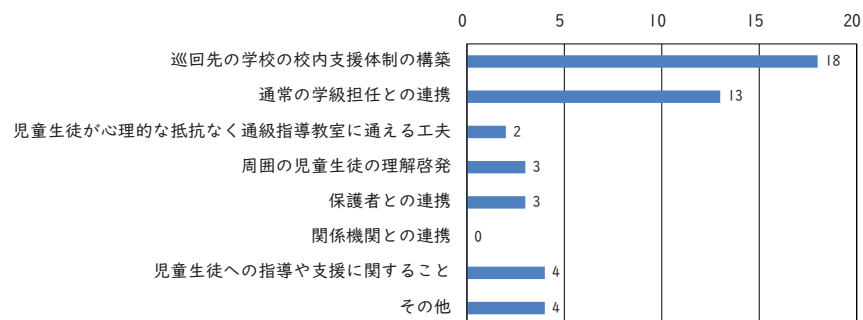
方 法：オンライン

令和5年度国立特別支援教育総合研究所 発達・情緒班ワークショップ

36

参加者の状況

【自校通級と比較して巡回指導が特に難しいと感じること】



指導体制の工夫

【サテライト型】

- ・各エリアの拠点となるA校に担当者を配置
- ・近隣の学校に3名以上の対象児がいるB校を教育委員会が「サテライト校」として指定
- ・拠点校の教員が、A校とB校を兼務

(例) 月水金はA校で勤務し、火木はB校で勤務

※各学校の行事等にも参加

※指導がない時間帯は、通常の学級のサポートや、通級の対象となっていない児童生徒の観察等

オンラインによる通級による指導

- ・電話やメールよりも「顔」が見える指導になる。
- ・関係ができていれば画面上のやりとりは可能である。
- ・対面よりも思いを伝えやすい場合もある。
- ・画面共有やチャットによるグループ指導も可能である。
- ・オンデマンド配信併用で指導が途切れない。
- ・教育相談や個別面談での活用ができる。

留意点

- ・子供の実態や指導内容による工夫は必須
- ・家庭や在籍校における「場」の設定は重要
- ・オンラインだけでなく、ハイブリットな工夫が重要

指導体制の工夫

【入り込み通級】

- ・通級担当者が、通常の学級の指導者として対象となる児童生徒を支援

【指導実践の継承】

- ・通級担当経験が長い教員が所属する学校に、経験の浅い複数の教員を配置し、指導実践を継承

【2E教育】

- ・IQの高い児童に対し、「通級型指導」「専門分野の特別指導」「巡回型指導」「本人参加型会議」の指導形態を併用しながら指導を展開

IV. 関連する取組

科学研究費補助金基盤研究（C）

高等学校における特別支援教育推進のための施策展開に関する研究Ⅰ
～高等学校における通級による指導の機能と役割に焦点を当てて～

1. 目的

通級の機能と役割に焦点を当てながら、高校において特別支援教育をどのように推進していけばよいか、教育委員会による計画的な施策展開の在り方について整理する。

2. 方法

(1) 教育委員会への質問紙調査Ⅰ（2021年）、Ⅱ（2022年）

対象：高校を設置している全ての都道府県・指定都市教育委員会（66箇所）

(2) 高校への質問紙調査（2021年）

対象：教育委員会から情報提供のあった高校（251校）

通級による指導の教育課程の編成（高等学校）

●加える場合の例（授業時数が増加する）

各学科に共通する 必修教科・科目 (31単位)	総合的な学習 の時間 (2単位)	選択教科・科目 (41単位)	障害に 応じた 特別の 指導	特別 活動
-------------------------------	------------------------	-------------------	-------------------------	----------

●替える場合の例（授業時数が増加しない）

各学科に共通する 必修教科・科目 (31単位)	総合的な学習 の時間 (2単位)	選択教科・科目 (41単位)	障害に 応じた 特別の 指導	特別 活動
-------------------------------	------------------------	-------------------	-------------------------	----------

授業
時数
が増
加

科学研究費補助金基盤研究（C）

高等学校における特別支援教育推進のための施策展開に関する研究Ⅰ
～高等学校における通級による指導の機能と役割に焦点を当てて～

【実施校数】

公立高校は251校（令和3年5月1日現在）

※令和3年度の学校基本調査による公立高校数の約5.6%に
相当（一都道府県市あたり平均3.8校）

【課程別の高校数（設置校数／全国の設置校総数）】

全日制127校（4.4%）、定時制61校（37.9%）、

全日定時併置9校（2.0%）、通信制1校（16.7%）

【指導受けている生徒数】

平均5.13人、指導に関わる教員数：平均3.13人

【特別の教育課程の編成】

「替える」指導14.6%、「加える」指導62.1%、
「両方」の指導19.7%

※教育課程を編成途中や、試行的な指導を開始している
という回答あり

【指導形態】

個別指導のみ52.5%、小集団指導のみ7.6%、
個別又はグループを選択38.4%

職業準備性のピラミッド

社会的・職業的自立に向けて必要な力の
土台や基礎になるものとして考えられるか



* 高齢・障害・求職者雇用支援機構（2016）「就業支援ハンドブック実践編」を参考として作成

日本LD学会（第32回） 講演番号：J05

Ⅰ 高校通級導入の実践の成果

「個別での指導」の実践②

校内体制のマイナーチェンジ

形態	教育課程	生徒数	対象生徒（新規）	対象生徒（継続）	T2の割り振り	個別の教育支援計画等の作成
H30	個別	加える	1	2年Aさん		特別支援教育コーディネーター、2学年
R1	個別	替える	4	3年Aさん	教務部	通級担当
		加える		2年B、C、Dさん	2学年	
R2	個別	替える	5	2年Eさん	教務部	通級担当
		加える		2年Fさん	2学年 3学年	
R3	個別	替える	2	2年Gさん	教務部	学級担任
				3年Eさん		
R4	グループ	替える	2	2年H、Iさん	教務部	学級担任

通級担当
特別支援教育コ
ーディネーター
学年
教務部
学級担任

成果

通級指導に対する**通級担当以外の教員の関わり**が増え
特別支援教育への**教員の理解**が深まった

これからの通級の在り方

「共に学ぶ」インクルーシブ教育ための重要な役割

- ① 障害特性より教育的ニーズに応じた指導
- ② 本人とともに作成する個別の指導計画
- ③ 必要な支援を自ら求め、働きかけることができる力の育成
- ④ 安心してSOS発信、援助要請ができる人間関係
- ⑤ 在籍校の指導・支援とのつながり、連続性
- ⑥ 在籍校の校内体制整備への関与
- ⑦ 自校（巡回）を中心に他校通級も本人に選択権
- ⑧ 指導は短期集中、相談対応で長期にフォローへ
- ⑨ 子ども、保護者、在籍校がそれぞれ自立できるように
- ⑩ 通級を利用しなくてもすむ予防的相談対応

発達障害教育推進センター (<http://cpedd.nise.go.jp/>)



49

発達障害ナビポータル (<https://hattatsu.go.jp/>)



50